

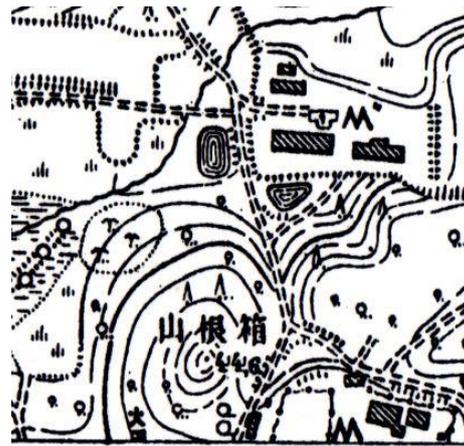
「地図豆」の地図を広げて街歩き

26-1 蟹川跡をたどって、富士山と箱根山と富士山に上る（距離約 9.0km）

【街歩き概要】

まいどのことになってしまった川跡たどりをしながら、今回は山にも登る？

新宿から始まる蟹川跡を神田川までたどりつつ、富士山と箱根山と富士山に上ることにする。



箱根山（10,000 地形図「四ツ谷」明治 42 年測量・大正 5 年修正以下同じ）

【道順】

西武新宿駅→歌舞伎町新宿区役所通り→四季の道→花園神社→新宿ゴールデン街→（太宗寺からの流れ→成覚寺→）太宗寺→新宿文化センター→大久保富士→西向天神社→抜弁天交差点→新宿 7 丁目→戸山公園へ→箱根山→戸山公園北→穴八幡宮→早稲田大学前→水神社（高田富士）→甘泉園庭園→（山吹町・東榎町→関口・改代町→関口・水道町界→東京メトロ江戸川橋）都電早稲田駅

地図豆知識：百人町の土地割

明治通りの西は、かつて「百人組ノ屋敷」、「大久保百人町」と呼ばれていた（1695 年ころ）。

その百人組には、甲賀組、根来組、青山組、大久保組があった。組は、慶長年間（1603～1614 年）前後にその編成が始まり、寛永年間（1624～1643 年）には与力・同心が加えられ組織が完成した。百人町の地名は、その大久保組組頭であった内藤清成が率いた伊賀組百人鉄砲隊の屋敷があったことに由来する。その鉄砲隊は、江戸の街の警護を担当した。

百人組らは、「間口を狭くし裏行を長くせしむ」（天正 19 年 1591）という家康の命のもとで、屋敷地を与えられたのだといわれる。間口は 12~15 間、奥行きは 350~400 間という南北に細長い形態で、短冊形に敷地が並んでいる。東西を走る道路沿いに居住地があり、屋敷地の奥行きは 9 割以上が手作場と呼ばれる自ら耕作する農耕地として利用され、副業としてつつじの栽培をしていたことで知られる。

この細長い地割りのため、道路の拡張が行われにくく、現在まで特徴的な細い路地が残っている。



百人町辺り

(10,000 地形図「四ツ谷」大正 5 年修正と「新宿」平成 5 年修正)

【街歩き解説】

①西武新宿駅から

地形図（下）を広げると西武新宿駅東周辺は、ほぼ整然とした町並みになっている。しかし、文化センター通りに続く（職安）通りだけは曲線を描いて東へと延びている。旧版図を参照すると明らかになるように、このうねった道筋が蟹川の流れがあった場所だ。

そして、明治通りの西には、かつてつつじの栽培で知られていたという百人町の町並みが特徴的である。それは、このコースを変更するか短縮して、新大久保コリアタウンに足を延ばせば容易に実感できる。

②四季の道・花園神社

西武新宿駅から職安通りを東へ進んできた蟹川跡の道は、四ツ谷第5小学校近くのY字交差点で、一つ南の靖国通り方向から進んできた都電跡と合流する。河川跡とは異なって大きな曲線を描く都電敷地跡は、現在四季の道と呼ばれる小道になっていて緑陰がいい。

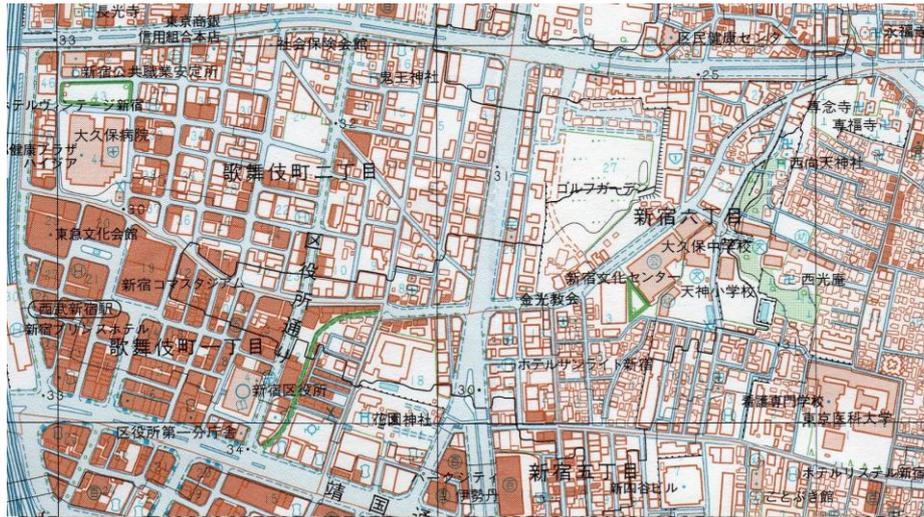
近くには、かつて野外ライブなどで有名になった花園神社だ。そして藤圭子の「圭子の夢は夜ひらく」歌碑などもあるから寄り道する。そして、隣接する屋の新宿ゴールデン街も覗いてみる。



四季の道と花園神社



(1/25,000 地形図「東京西部」(昭和41年改測)を拡大したもの)



四季の道 都電跡



新宿ゴールデン街

③太宗寺からの蟹川の流れ

四季の道、花園神社をたどった後は、もう一つの蟹川の源である太宗寺からの流れに行ってみるのもいい。地図で等高線をなぞってみると、向天神から北へ新宿文化センター(裏)、成覚寺、太宗寺とつながる谷が明らかになり、その間にやや曲線を描く道路が発見できるだろう。これをつなげたのが蟹川のおおよその流れである。文化センター通りから上下してこれを確かめてみる。

④成覚寺

新宿文化センター裏から南へ上る曲線の道につなげて、靖国通りを越えて成覚寺と向かう。同寺の敷地は、通りから一段と低い不思議な位置にあって、もとの地形を感じさせる

ものだ。これまで進んできた方向を振り返ると、成覚寺敷地の高さを連ねるような谷が靖国通りの向こうに見えて、さらに納得できるはずだ。

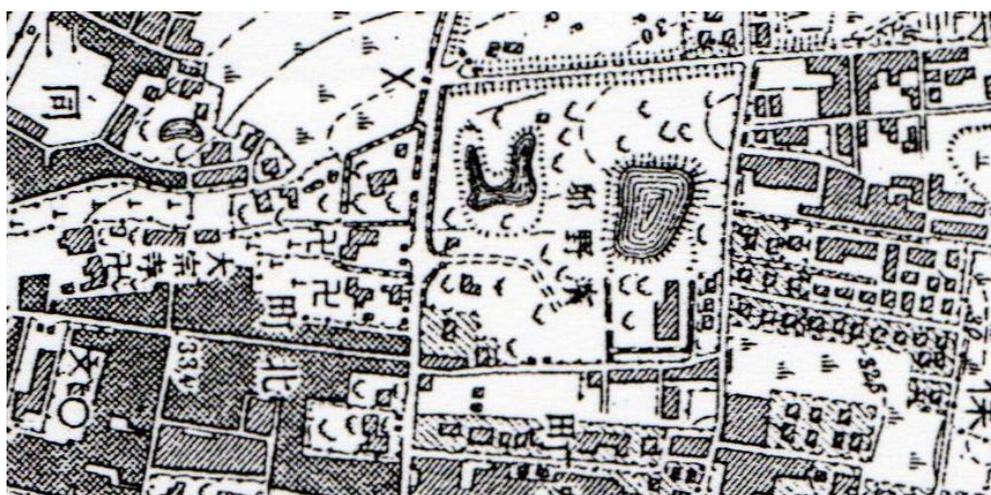
谷を横切る靖国通りは、交通を容易にするために盛り土したことが歴然とする。同寺には、太陽暦への改暦作業や地誌の編纂など、地図測量にも関わりのある塚本明毅の墓碑がある。



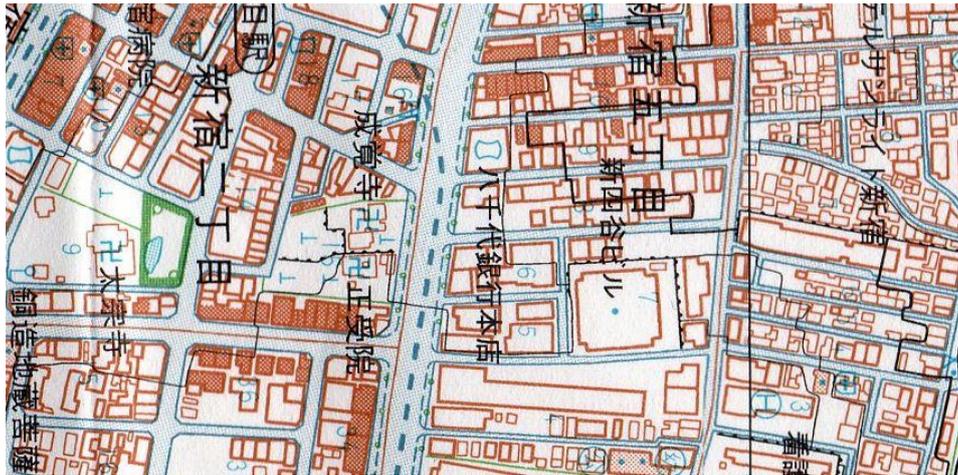
成覚寺と太宗寺の六地藏

⑤太宗寺

旧版図には、成覚寺の手前にあった濱野邸にも大きな池が見える。そして、少し古くなった現地形図の太宗寺境内には、池が書かれているが、いずれも現在はない。境内の江戸六地藏（銅造地蔵菩薩坐像）などを見て、川跡を確認しながらもと来た道を新宿文化センターまで戻る。



太宗寺辺り（10,000地形図「四ツ谷」大正5年修正）

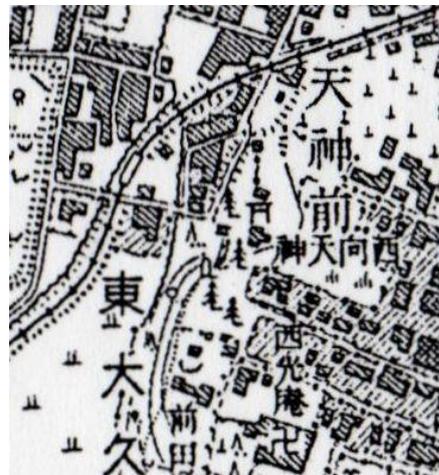


大宗寺辺り（10,000 地形図「新宿」平成 5 年修正）

⑥西向天神社

新宿文化センターの裏へと向かう。天神小学校に沿って下る辺りにも小さな流れがあったようだなどと想像しながら曲線的な道を下る。しだいに、河川浸食が作った崖（ハケ）が明らかになり、東に伸びるハケの上に西向天神社が現れる。ここに富士山信仰に関連する小さな富士山（大久保富士）がある。

この山は、駐車場の破れた金網をくぐらないと登山できない。5合目、7合目、9合目と案内のある険しい登山道を上ると山頂に到達する。西向天神社は、文字どおり西向きに建っている。神社の西下は山吹坂。境内には、太田道灌に山吹を差し出した乙女「紅血」の墓、「新宿の女」歌碑もある。



大久保富士辺り（江戸切絵図（人文社版）と地形図）

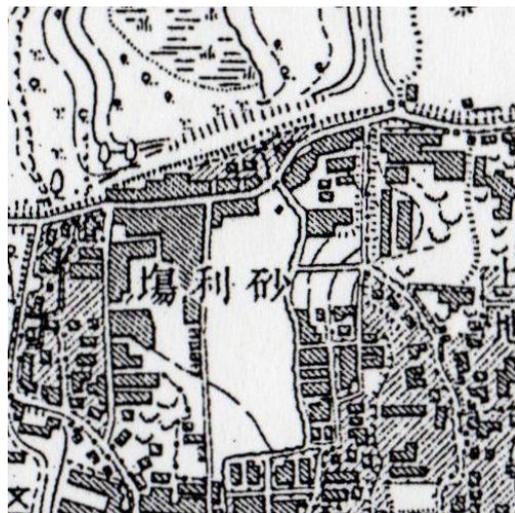


西向天神社の大久保富士と西向天神社から山吹坂

⑦戸山公園・箱根山へ

椎木坂をたどって大久保通りを渡り、新宿七丁目から、戸山公園へと向かう。新宿七丁目に曲線を描く道は数本あるが、蟹川は東戸山中学校の西縁から東戸山小学校の敷地内を結ぶように通過していたようである。

あたりの旧版地図を広げると「砂利場」の地名が見える。一概には言えないが、神田川沿いの面影橋近くにある氷川神社境内には、奉納したと思われる「砂利場」「砂楽連」の標石もあって、辺りでは砂や砂利の採取が行われたことをうかがわせる。



現東戸山小学校の南 新宿7丁目に見える「砂利場」地名

さらに北上すると、新旧の地図に「箱根山」の文字がある。箱根山は、山手線内でもっとも高い人造の山である。標高は44.6m、一分ほどで登頂することができる。

辺りは、もと尾張徳川家の下屋敷で、小石川の後樂園とならぶ名園があった。この地を回遊式庭園として整備する際に、池を掘った残土を積み上げて建造されたのが箱根山だと

いう。旧版地図で山麓に湿地が広がっていたが、現在辺りは戸山公園として整備されて小さな流れも再現されている。

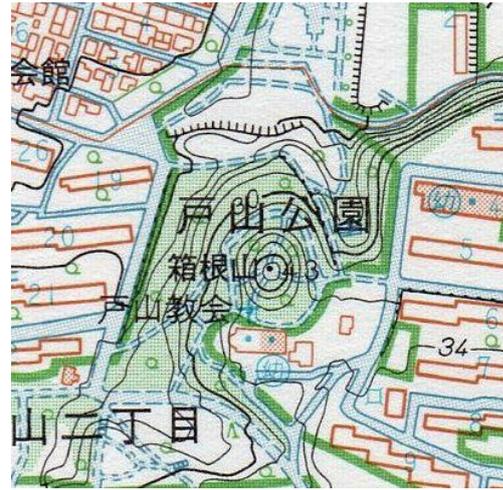
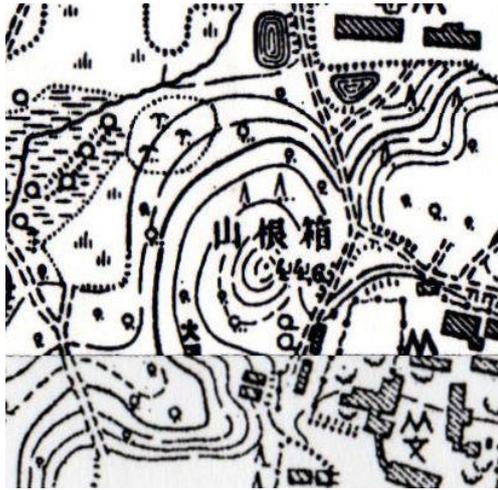
ちなみに、23区内には標高 25.7m の愛宕山、そして 22m の上野の山（すり鉢山）がある。単なる高所でいいなら山手線内にも標高 30m 以上の地点は多くある。近くでは、新宿駅南口近くの水準点は標高 35.06m、新宿御苑前の水準点は、同 33.77m である。



箱根山への登山道と山頂



蟹川流域デジタル標高地形図（「TokyoTerrain on the Google Earth」）



箱根山

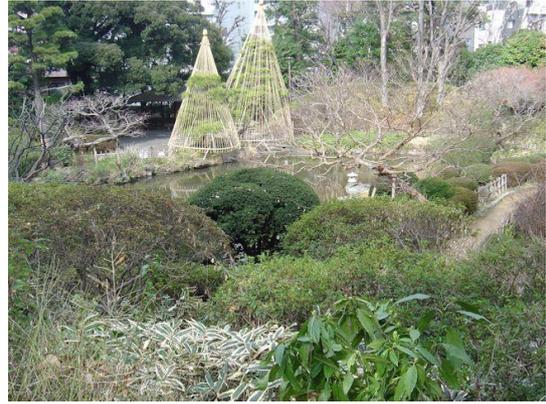


新宿三丁目駅南と新宿御苑駅前の水準点

⑧穴八幡宮

旧蟹川の作った崖（ハケ）下を通って放生寺と穴八幡宮に立ち寄る。八幡宮の布袋様と神輿を納める蔵が並ぶさまがいい。早稲田大学に近い法輪寺は、日賢上人（寛文9年1669年寂）が開山となり創建したといい、将軍家綱ゆかりの古刹で、江戸時代からの本堂は空襲で焼失した。

その後は、蟹川跡から離れて高田富士をめざして早稲田通りを上る。



穴八幡宮と甘泉園

⑨甘泉園庭園・高田富士

甘泉園庭園は、徳川御三卿の清水家の下屋敷であったという日本式庭園である。かつては、庭園の中央に湧き水があったという。現在のそれは、自然か？ 人工か？

周囲を小山に囲まれたような甘泉園庭園の南端には水稲荷神社があって、その裏手には、標高 20m ほどの富塚古墳が残る。これも、富士山風だが、ほんとうの高田富士は、甘泉園庭園東南に隣接してある。

江戸最古の富士山（塚）は、高田籐四郎（日行）が 1780 年（安永 9 年）に建てたものであるとされる。ところが 1964 年（昭和 39 年）頃に早稲田大学のキャンパス拡張（現在の早稲田大学 9 号館）に伴い破壊された。そこで、近隣の水稲荷神社に代わりの富士塚が建てられた。この富士山は、普段は立ち入ることはできないが、富士講が行なわれる日（7 月下旬の土日）に入ることができる。いずれの高まりにも、地図上には等高線がなく標高が読めない。ちなみに、当時のまま現存する富士塚としては、東京都渋谷区千駄ヶ谷の鳩森八幡神社の千駄ヶ谷富士が都内最古である（寛政元年 1789 築）。



富塚古墳と高田富士の登山口

⑩（更に蟹川をたどるなら）関口・水道町界から神田川へ

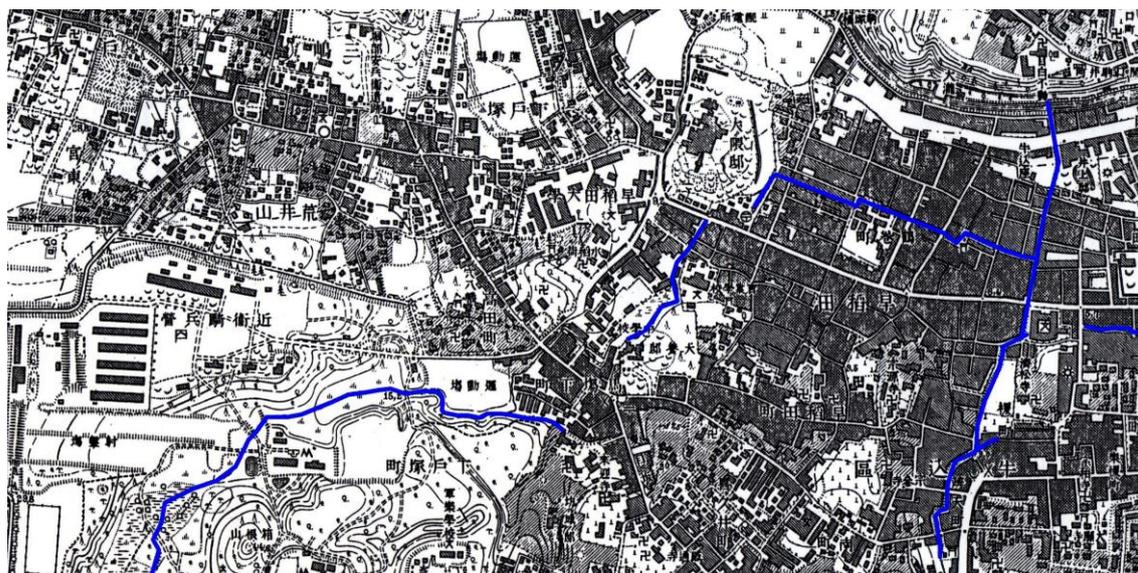
その後の蟹川は、放生寺と穴八幡宮のあるハケ下を流れ、早稲田大学大隈庭園の脇を抜けて、弦巻小学校辺りを通過するのだが、ここまできると旧版地図でもすでに市街化が進んで、道路も整然と整理されて痕跡は見つからないが、早稲田通りを横切っていたようだ。弁天町から蟹川に注ぐ支流は、外苑東通りの西に小道として残る。その後は、新宿山吹高校、あるいは大日本印刷工場のあたりに曲線を描いて道が残り、ここまでは現地地形図にも川跡は明らかである。

一般に、川（跡）は、しばしば行政界となる。蟹川跡もまた、その後現神田川の南にある新宿区関口と文京区水道町界などとなっているようだが、それは蟹川跡というよりは、旧神田川の蛇行跡をなぞるもののようなものである。

ともかく、神田川の流れを見て、蟹川跡をたどる街歩きは終わる。



早稲田と山吹町辺りの蟹川跡



早稲田から神田川までの蟹川跡（1/10,000 地形図「早稲田」）



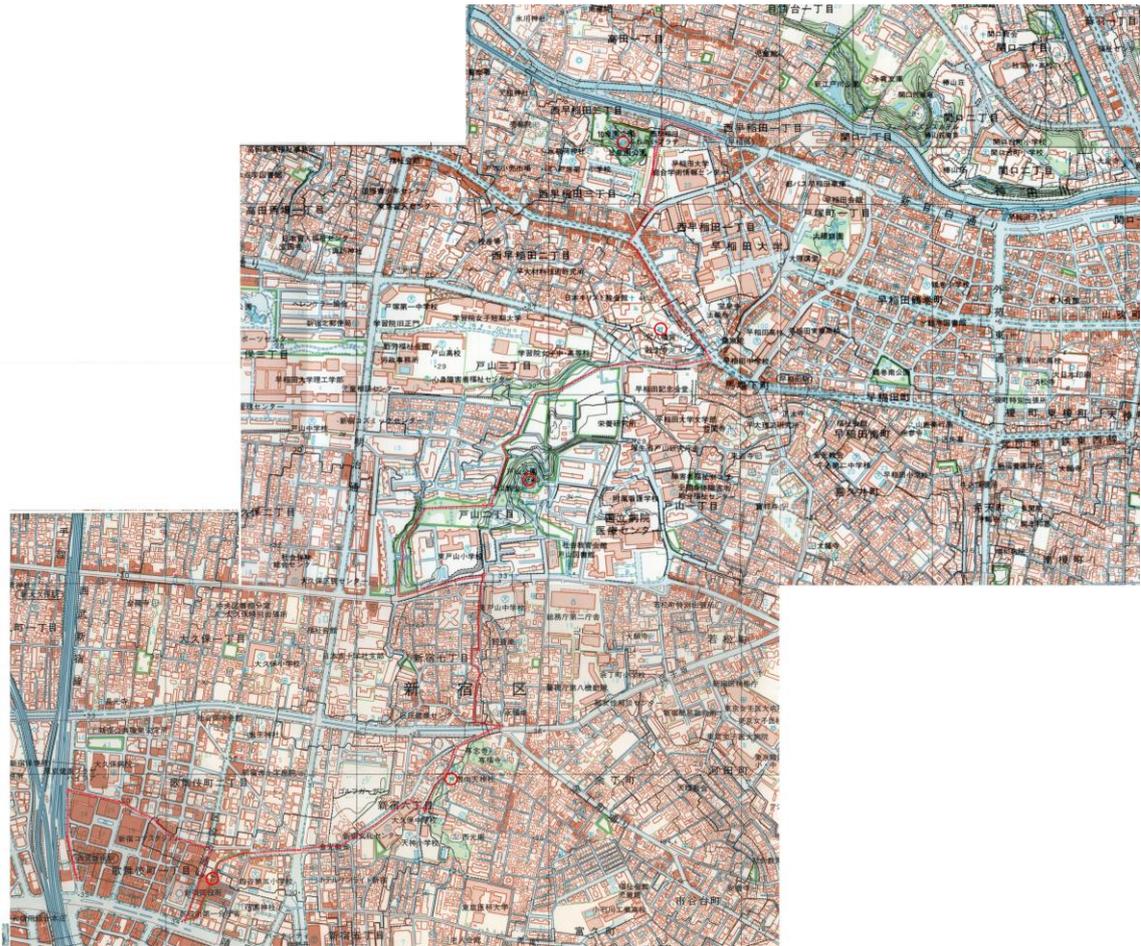
改代町と関口・水道町あたりの区界

その 26-1 汗を流して箱根山と富士山とコリアタウン （距離約 6.0km）

【道順】

新宿御苑前駅→太宗寺→成覚寺→花園神社→新宿ゴールデン街→四季の道→花園饅頭→新宿文化センター→大久保富士→西向天神社→専念寺→戸山公園へ→箱根山→戸山公園北→コリアタウン→JR 新大久保駅

(新宿御苑から始まる) ルートマップ



+* * *+ オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +* * *+